

令和6年度 ひきこもり対策推進事業委託業務

ひきこもり対策推進事業
実績報告書

公益財団法人北海道精神保健推進協会
北海道ひきこもり成年相談センター

はじめに

当法人では、平成 21 年度から「ひきこもり対策推進事業」を北海道より受託し『北海道ひきこもり成年相談センター』（以下、「当センター」という）を設置し、第一相談窓口としての機能を果たすとともに、関係機関とのネットワーク構築及び一般市民に対する普及啓発を行ってきた。

ひきこもりは様々な要因や問題が複雑に関係しており相談機関 1ヶ所での対応には限界がある。他機関とも連携し対応を進めていかなければならない。当センターの役割として、直接的な相談対応だけではなく、地域の中でどのようにひきこもり当事者や家族を支えていくのか、道内各地域での「支援者支援」に関わることが急務かつ継続的に必要であると考えており、支援にあたっては、ひきこもりの期間やひきこもり当事者の年齢によってその状態像や支援ニーズは異なるため、状況に応じてアセスメントを行い、支援手段を模索する必要がある。

令和 6 年度では引き続き、ひきこもり支援に携わる市町村職員等への後方支援として、研修会、個別相談、ケース検討などを通じて北海道全体の「ひきこもり支援スキルアップ」を目指した。オンラインを活用した研修会やケース検討は引き続き実施しており、「利便性も良い」と支援者を始め当事者・家族からの好評であったため、広域な北海道に有用な手段として今後も活用したい。また、札幌市ひきこもり地域支援センター（当法人受託）において行っている「出張相談会」を活用し、相談機会の工夫を凝らした。土日相談等、今後、利便性を含めた出張相談の企画も考えていきたい。

「ひきこもり相談会・研修会」としては、各保健所および市町村に希望確認を行い、希望のあった地域と連絡調整をし、研修会等を実施した。当年度は計 31 回開催し、依然としてニーズが高いことが窺える。これまで、新型コロナウイルスの影響からオンラインでの開催もあったが、対面での開催も増えている。「研修会」参加者は把握している限り約 470 名であった。昨年度の約 250 名よりも倍近くを推移している。「相談会」では市町村からの周知により個別相談希望もある。また、道内における「ひきこもり相談窓口の充実」もあり、道内各地のひきこもり相談窓口との連携も増えてきている。

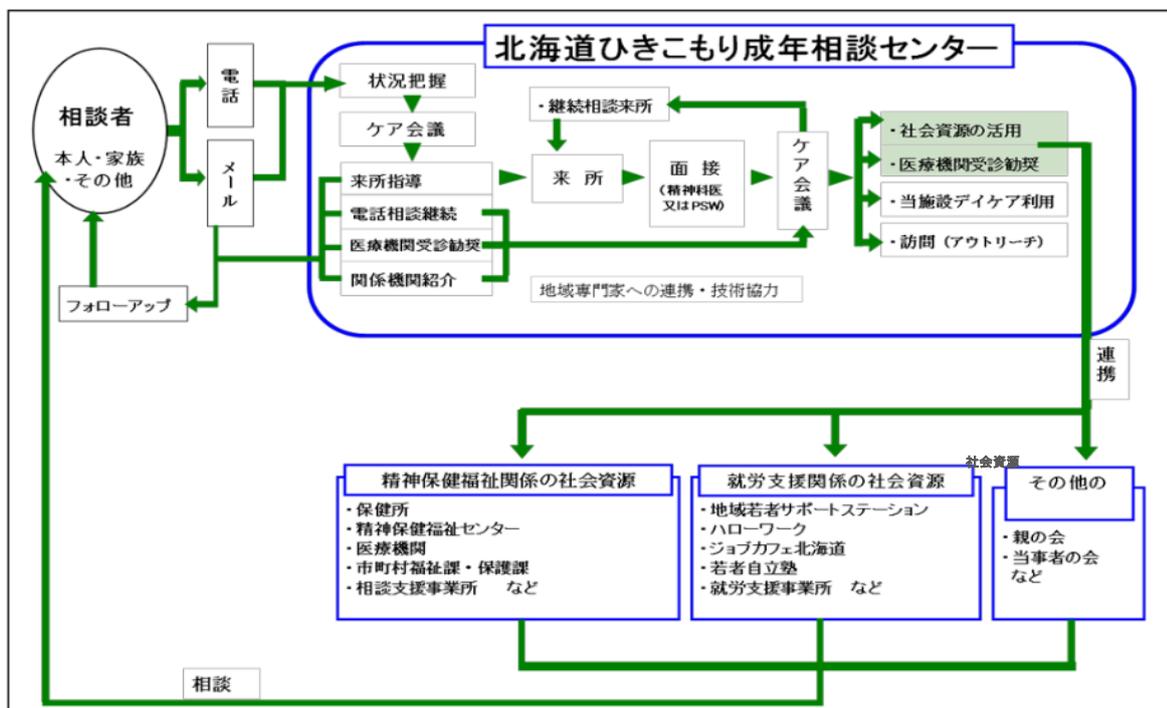


図 1 相談支援の流れ

1. 相談支援実施状況

当センターでは、平成 21 年 7 月 1 日からひきこもりの相談事業を開始している。
 なお、平成 27 年 10 月 1 日以降「札幌市ひきこもり地域支援センター」の運営を受託していることから、札幌市民の相談件数はカウントしていない。札幌市民の相談件数をカウントしなくなった平成 28 年度より、相談総件数は増加しているが、これは平成 29 年度より行っている「ひきこもり相談会・研修会」による影響も大きいと思われる。

(1) 相談支援概要

ア. 相談件数 (単位: 件)

相談件数計	554
新規相談	91
継続相談	463

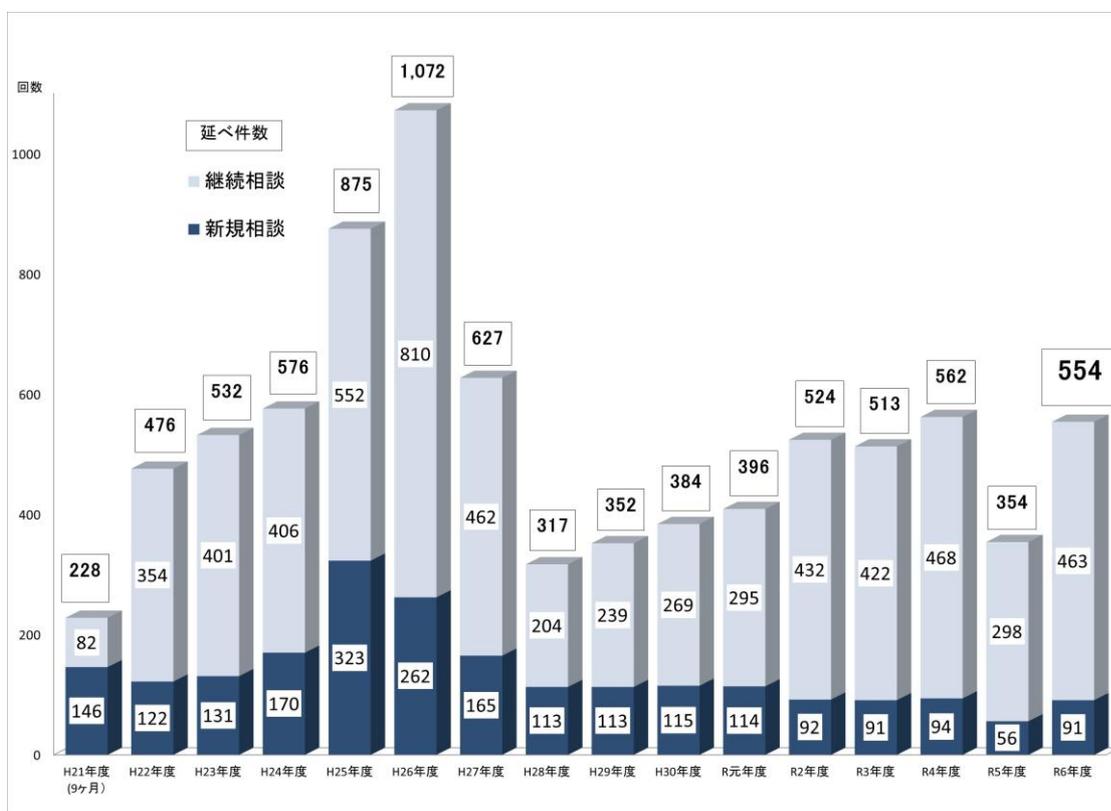


図2 相談件数の推移 (年度別)

- 当年度の相談延べ件数は、554 件であり、新規相談者は 91 名であった。
- 相談件数は、新規相談・継続相談ともに昨年度より増加している。
- 「新規相談」は特に電話相談からのケースが多い。
- 「メール相談」の件数が増加しており、遠方のケースで継続的な相談があり増加している。長年支援を続けていく中で対面相談につながったケースもある。

イ. 相談者数

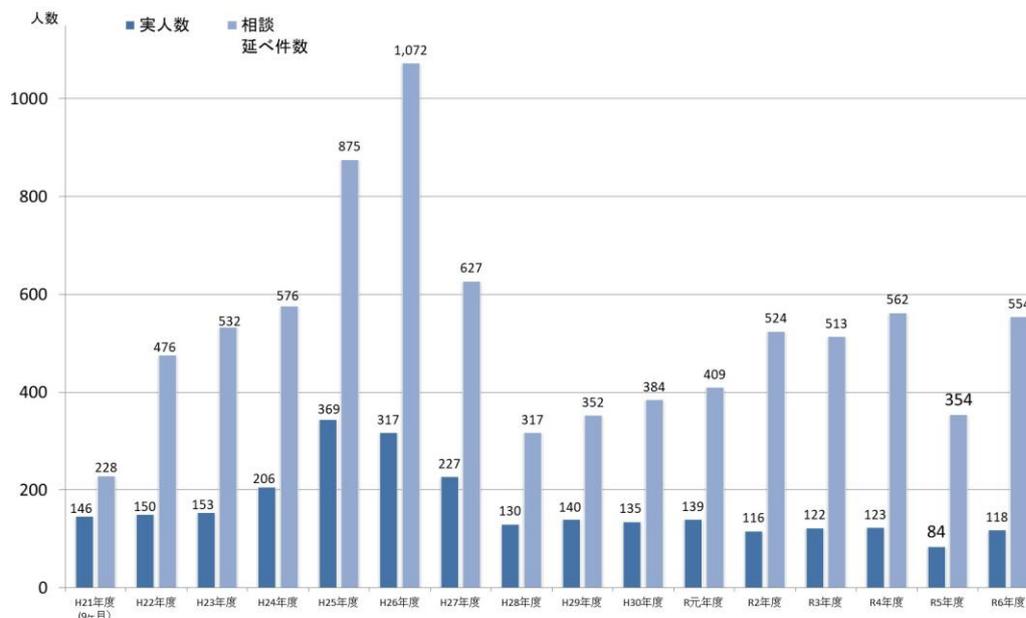


図3 相談延べ件数と実人数（年度別）

○当年度の相談実人数は118名で、平均して1ケースあたり約4.7回の相談であり（前年度は約4.2回）、昨年度よりも微増している。

（※相談実人数は、新規相談者に加え、前年度以前から継続している者も含む。）

（※相談実人数118名のうち、新規相談が91名、継続相談が27名となる。継続相談の内訳は3ページ参照。）

ウ. 相談方法

(単位:回)

	新規相談	継続相談	計	構成比
電話	58	55	113	19.4%
来所	2	53	55	9.4%
メール	18	341	359	61.6%
アウトリーチ	13	10	23	3.9%
出張相談等		4	4	0.7%
小計	91	463	554	
連携	-	29	29	5.0%
ケア会議	-	-	-	-
小計	-	29	29	-
計	91	492	583	100%

(※相談方法に「連携」、「ケア会議」を含む)

(※「アウトリーチ」には、関係機関を訪問し実施した「ケース検討会」を含む) ※詳細は15ページ参照

(※「電話」には、オンラインによる継続相談を1件含む)

(※「ケア会議」に計上はしていないが、必要に応じすべての相談ケースにおいて、日頃から所内の各相談員同士で支援方法についてケース検討・会議を実施している)

○「アウトリーチ」による相談は23件ある。

○「メール」による相談件数は全体の6割にのぼる。これは、「電話」や「来所」に比べ相談が容易く頻度が多いためと考えられる。当年度の主な内訳としては、「遠隔地であるため継続したメールのみ相談」、「メール相談を継続しアウトリーチへ繋がった相談」、「家族が遠方に在住のためにメールのみの相談」などがあげられる。

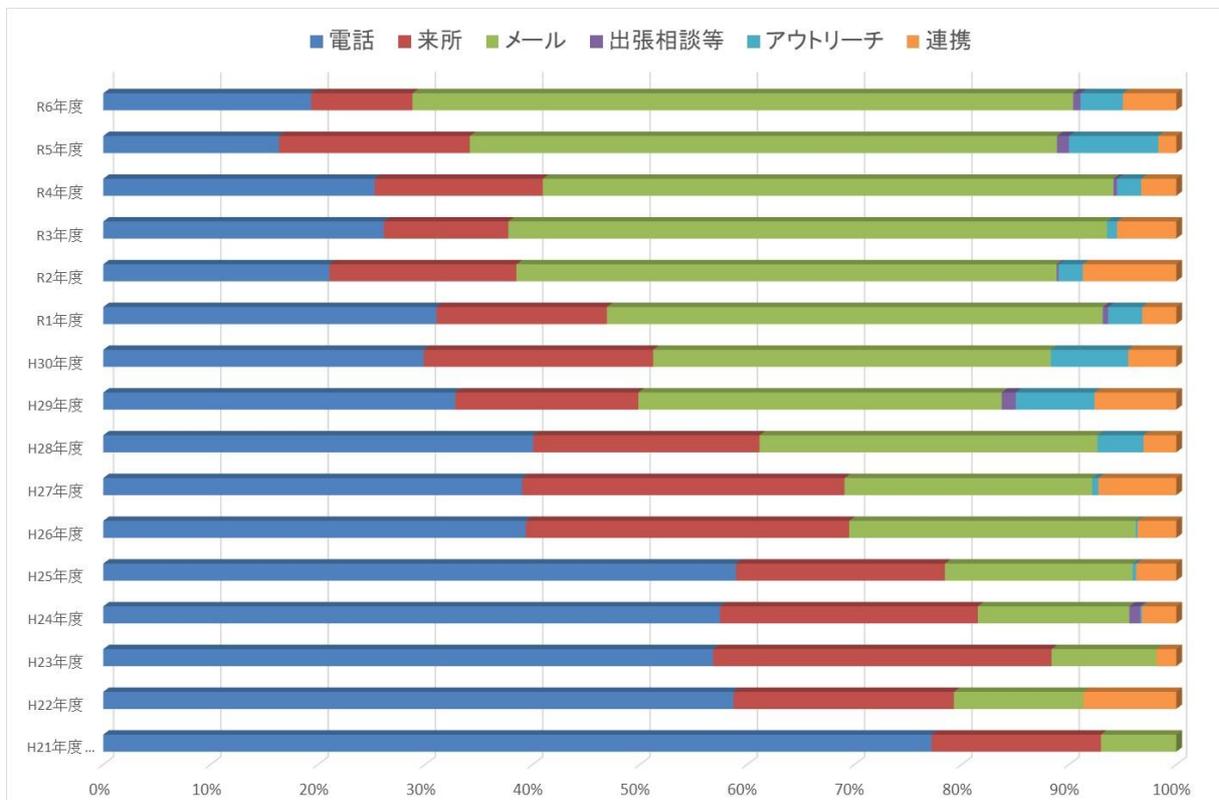


図4 相談方法別割合 (年度別)

エ. 相談時間

相談方法別相談時間区分件数

(単位:件)

	0～ 15分未満	15～ 30分未満	30～ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時:分)	平均 所要時間
電話	22	42	46	3	113	46:40	25分
来所		3	15	37	55	51:35	56分
メール		2	3	18	23	76:05	13分
アウトリーチ	256	80	23		359	24:15	63分
出張相談等				4	4	4:30	68分
連携	9	14	4	2	29	9:15	19分
計	287	141	91	64	583	212:20	22分

(1) 電話相談

延べ回数	実人数
113回	73名

・ZOOMによるオンライン個別相談・関係機関同席の相談を計5回(3カ所)実施。

(2) 来所相談

延べ回数	実人数
55回	18名

(3) メール相談

延べ回数	実人数
359回	29名
※延べ回数はメール受信及び返信の回数	

(4) アウトリーチ

延べ回数	実人数
23回	20名

○11 ケースにおいて、本人、家族に対してのアウトリーチ相談を実施。

○他ケースは関係機関へ向けたケース検討を実施。※地域の詳細は15ページ

(5) 出張相談等

延べ回数	実人数
4回	1名

○札幌市ひきこもり地域支援センターにおいて実施している「出張相談会」を活用し、居住地に近い区民センターにて相談を行った。いずれも当センターで基本的に実施していない土日相談である。

(6) 連携状況

「連携状況」は継続相談においての関係機関へのケースの繋ぎ、または関係機関からのケース紹介（初回）、ケース相談などを指す。関係機関より初回相談があった場合は、相談方法における電話等にカウントしている。継続相談の中で、関係機関との連絡等が「連携」であり、下記の「連携状況」はこれらを合算し詳細を記載する。

他機関からの繋ぎ

連携先	件数
役場	1
相談支援事業所	1
保健所	1
計	3

他機関への繋ぎ

連携先	件数
保健所	6
役場	5
包括支援センター	3
地域生活支援センター	3
相談支援事業所	3
生活困窮窓口	2
社会福祉協議会	1
家族会	1
ひきこもり地域支援センター	1
精神科	1
計	26

(5) 相談者の状況（新規初回相談）

ア. 相談者内訳

	件数	構成比
本人	29	31.9%
父	1	1.1%
母	25	27.5%
兄弟姉妹等	18	19.8%
その他	18	19.8%
計	91	100%

○当年度は、「本人」からの新規相談が約3割となっている。

○「その他」は、18件のうち、17件は他機関からのケース相談や、ケース紹介であった。
1件は知人からの相談であった。

イ. 相談方法別相談者内訳

(単位:件)

	電話	来所	メール	アウトリーチ	出張相談等	総計
本人	20		8	1		29
父				1		1
母	18	1	3	3		25
兄弟姉妹等	11	1	6			18
その他	9		1	8		18
計	58	2	18	13		91

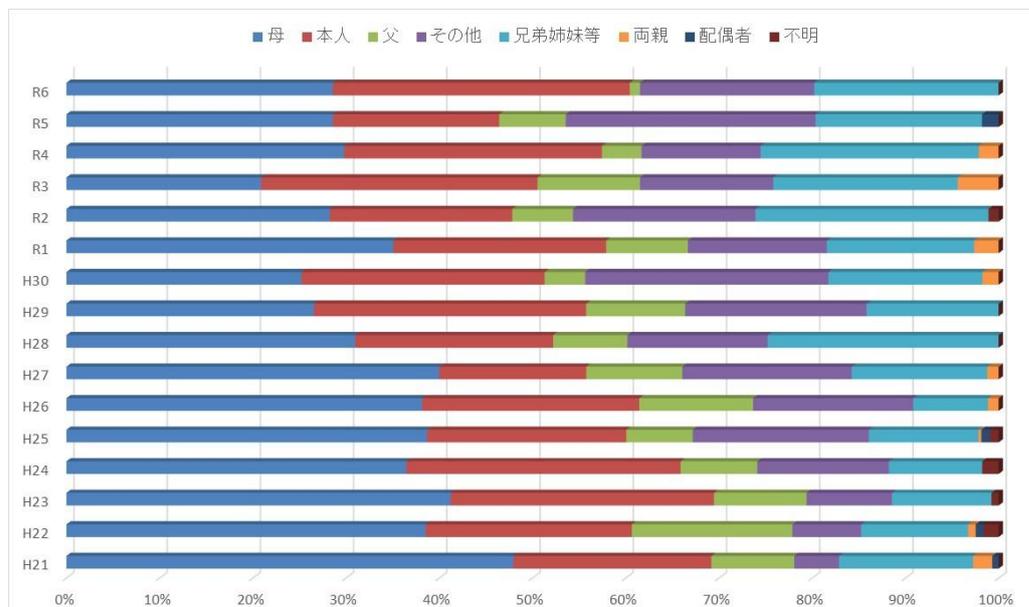


図5 相談者内訳の割合と推移 (年度別)

○当年度は、「本人」からの新規相談が一番多くなった。

○「兄弟姉妹等」には、祖父母、叔母、いとこ、娘、姪などの親族も含まれる。

(6) 当事者の状況

ア. 当事者の年齢

(単位：人)

	男	女	不明	計	構成比
20歳未満	6	3		9	9.9%
20歳以上～30歳未満	17	7		24	26.4%
30歳以上～40歳未満	15	8		23	25.3%
40歳以上～50歳未満	13			13	14.3%
50歳以上～60歳未満	10	2		12	13.2%
60歳以上	3	1		4	4.4%
不明	5	1		6	6.6%
計	69	22		91	100%

○「50歳未満」が44名おり、全体の約8割を占める。

○最少年齢は11歳、最高年齢は77歳となっている。男性の平均は36.5歳、女性の平均は31.0歳、全体平均は35.2歳であり、昨年度よりも若干高い。

○新規相談者の男女比は約7：3となっている。

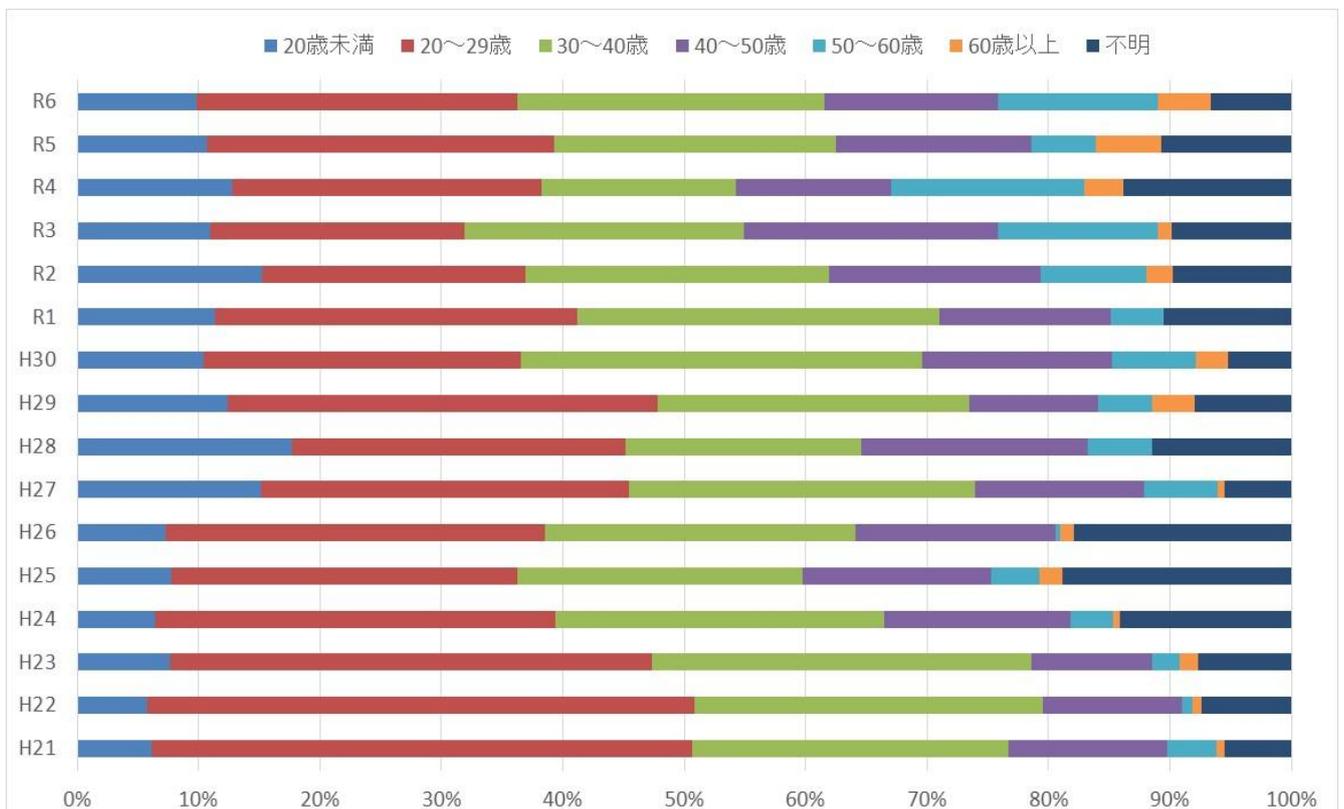


図6 当事者の年齢区分別相談割合（年度別）

イ. 当事者の居住地

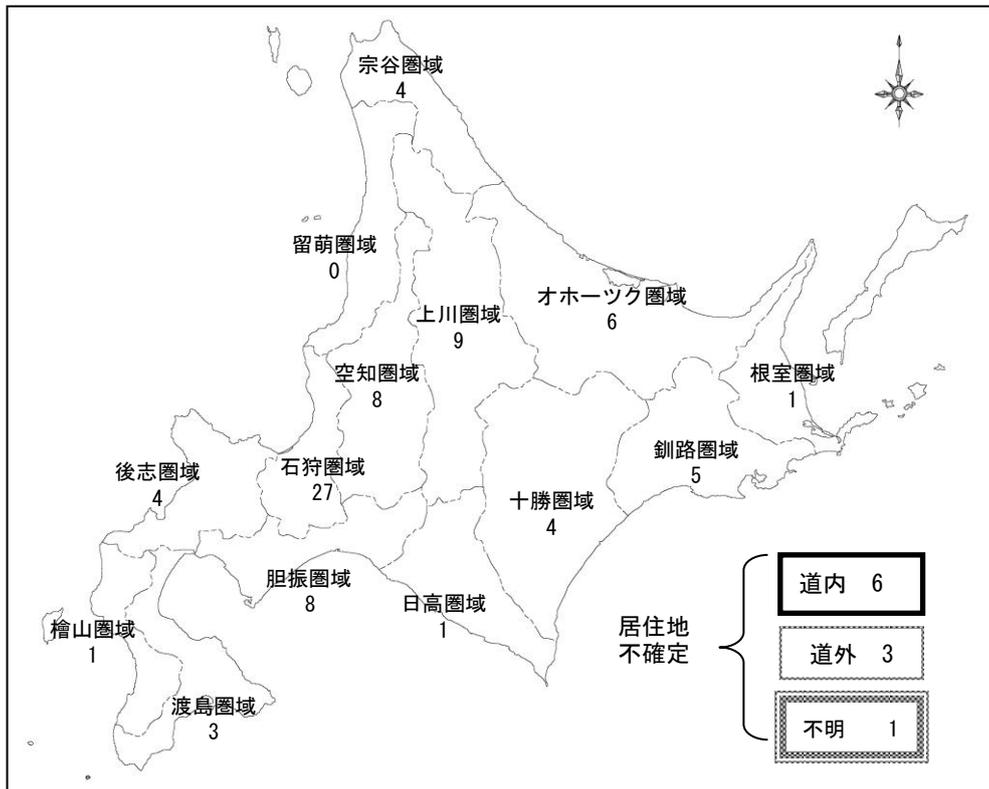


図7 当事者の居住地

- 当年度の相談のうち、「石狩」圏域からの相談者が合計で27名と最も多く、これは当センターが札幌に所在しているのが要因だと思われる。
- 「ひきこもり相談会・研修会」の実施により、遠隔地でのアウトリーチによる相談に繋がっている。年度によって実施希望の有無もあり、圏域の件数に違いが出ている。※地域の詳細は15ページ
- 「道外」については、適切な関係機関を紹介するなどして対応した。

圏域	
石狩	27
上川	9
胆振	8
空知	8
道内	6
オホーツク	6
釧路	5
宗谷	4
後志	4
十勝	4
道外	3
渡島	3
根室	1
檜山	1
日高	1
不明	1
留萌	0
計	91

(9) 相談目的

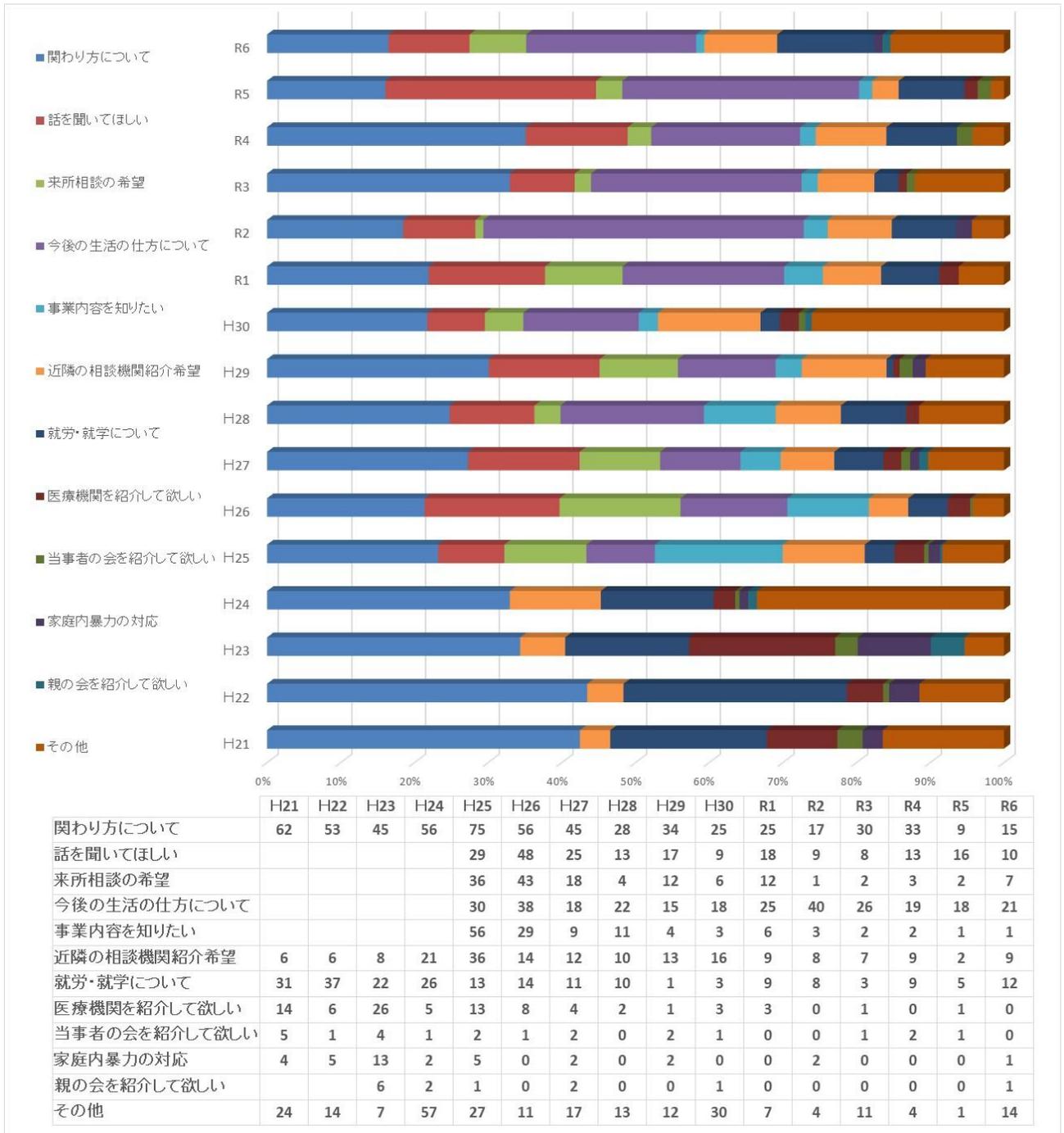


図8 相談目的件数の割合と推移（年度別）

○相談理由は多岐にわたっている。

（※平成25年度より相談目的の分類を追加している）

(10) 他機関への相談経験の有無

	件数	構成比
相談経験あり	53	58.2%
相談経験なし	12	13.2%
不明	26	28.6%
計	91	100%

○当センターへ相談する以前に、他機関へ相談している方が53件、約6割あり、当センターに相談につながる前に、すでにひきこもり状態について相談していることが窺える。また、1ヶ所だけではなく複数の他機関にすでに相談しているケースも多い。

○相談先は、医療機関（精神科・心療内科）が最も多く（36件）、保健所（10件）、市町村窓口（5件）だった。また、他のひきこもり地域支援センター（4件）、若者サポートステーション（4件）、生活困窮相談窓口（3件）などもある。

○すでに医療機関（精神科）へ継続的に受診しているケース、治療中断例も少なくなかった。加えて、相談者が「相談先が無い」「話を聞いてくれるところが無い」と感じているケースが多かった。

(11) 相談の継続性

実人数(相談開始時期別)

	R6年度 に相談 を開始	R5年度 に相談 を開始	R4年度 に相談 を開始	R3年度 に相談 を開始	R2年度 に相談 を開始	R1年度 に相談 を開始	H30年度 に相談を 開始	H29年度 に相談を 開始	H28年度 に相談を 開始	H27年度 に相談を 開始	H26年度 に相談を 開始	H25年度 に相談を 開始	H24年度 に相談を 開始	H23年度 に相談を 開始	H22年度 に相談を 開始	H21年度 に相談を 開始	実人数	相談 延べ件数	当年度 以前の 相談者計
H21年度 (9ヶ月)																146	146	228	-
H22年度															122	28	150	476	28
H23年度														131	16	6	153	532	22
H24年度													170	24	7	5	206	576	36
H25年度												298	17	18	7	4	344	875	46
H26年度											262	32	4	11	4	4	317	1072	55
H27年度									165	6	31	19	2	2	7	1	227	627	62
H28年度								113	11	5	2	5	1	0	1	2	130	317	17
H29年度								113	11	5	3	5	1	1	1	0	140	352	27
H30年度							115	13	1	1	1	2	0	1	1	0	135	384	20
R元年度						114	9	6	1	3	0	2	0	2	2	0	139	409	25
R2年度					92	11	5	4	0	1	1	1	0	1	0	0	116	524	24
R3年度				91	11	9	4	3	0	0	1	1	0	2	0	0	122	513	31
R4年度			94	13	2	5	4	2	0	0	1	1	0	1	0	0	123	562	29
R5年度		56	7	6	3	5	3	2	0	0	0	1	0	0	0	0	84	354	27
R6年度	91	8	6	4	2	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	118	554	27

○令和5年度までの相談者のうち、27名が当年度にも相談を継続している。

○就労・就学や通院などにより、ひとまずはひきこもり状態から脱したケースもあるが、再度ひきこもり状態となる事もあり、本人の意思は尊重しつつ、転帰があっても相談の継続を促すなど、「繋がり」を確保しておく事も重要と考える。

○また、相談後に「ひとまずはひきこもり状態を脱した」かどうかは、相談者からの連絡が無い限り分からない事も多く、全てのケースを把握しておく事は難しい。

(12) 相談転帰

初回相談の転帰

転帰	件数
終了	43
助言終了	26
関係機関紹介	17
受診勧奨	0
来所を指導	7
電話・メール相談継続	40
その他	0
中断	1
総計	91

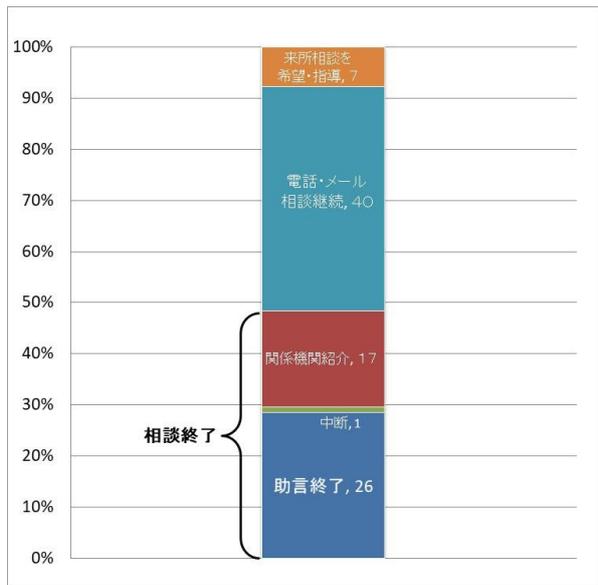


図10 初回相談の転帰

- 初回相談で終了したケース43件(47.3%)で、そのうち「助言終了」が26件ある。
- 初回相談のうち、助言終了としては「すでに医療機関に繋がっていたケース」や「ひきこもりの相談ではないもの」もあった。
- 電話・メール相談継続が40件、来所に切り替えた相談が7件で、計47件(51.6%)が継続相談を要すると判断し対応した。相談継続の中でも、状況によっては来所に切り替えるケースもある。
- また、助言終了と判断後も再度、電話相談等につながるケースや、別の家族や親族からの相談があるケースもある。

(13) ひきこもり相談から当施設精神科デイケアを活用したケース

ア. 精神科デイケアへの通所

	人数
令和6年度	0
平成21～令和5年度	39
計	39

○ひきこもり相談から当センター併設のデイケア通所につながったケースは当年度0名であった。

通算39名である。※R5(41名)から数値の修正

○デイケア通所した39名のうち、当年度現在の状況として把握している限りにおいて、現在21名※がデイケアから就労や就学など次のステップへ移行している。

(※障害者雇用やアルバイト等の一般就労9名、就労継続支援A型事業所2名、就労継続支援B型事業所4名、就学3名、他治療へ3名)

イ. ひきこもり外来状況

年 度	平成21年～ 令和5年度	令和6年度	計
延べ回数	468回	14回	482回
新規ケース	70名	1名	71名

○当年度では、ひきこもり相談からひきこもり外来に新たに繋がったケースは1名であった。これまで、合計で71名がひきこもり外来にかかっている。

○当年度では、ひきこもり外来を3名に対して行い、計14回の診察があった。

○ひきこもり相談においては、ケースによって精神科の治療が必要なケースがあることが窺える。ただし、本人の意思や状況によるため、全てのケースに精神科の治療が必要な訳ではない。

2. 支援ネットワーク構築等

支援ネットワーク構築として、関係機関に対する事業概要説明をはじめ、研修会の開催、講演会等の講師派遣、研修会参加などにより各支援機関との情報共有、連携を行ってきた。

また、「ひきこもり相談会・研修会」は道内の市町村を始めとする関係機関と連携し、「北海道ひきこもり成年相談センター」のひきこもり支援者連絡会議として実施した。具体的な状況は以下のとおりである。

(1) 事業概要説明等

月	日	実施内容	備考
5	15	「ひきこもり支援について打ち合わせ」就労移行支援事業所（1名）	来所
5	31	「ひきこもり支援について打ち合わせ」 札幌市自閉症・発達障がい支援センター おがる（2名）	来所
8	2	「札幌市若者支援施設の在り方検討に向けた支援者ヒアリングの実施について」 札幌市子ども未来局（7名）	来所
8	5	「若者支援について将来的な方向性について」札幌市子ども未来局（3名）	来所
9	12	「ひきこもりサポーター養成研修について」北広島市	電話
9	12	「ひきこもり支援について打ち合わせ」札幌市スクールソーシャルワーカー	電話
9	18	「ひきこもりサポーター養成研修について」北広島市	電話
10	2	「ひきこもり就労支援についての打ち合せ」民間企業（2名）	来所
10	2	「ピアサポーターとの協同について打ち合わせ」相談支援事業所	電話
12	3	「個人番号カードの交付等に関する、ひきこもり状態にある方への申請支援体制についての問い合わせ」江別市	電話
12	10	「当事者インタビュー対応」民間企業（3名）※当センター相談者（元当事者に依頼）	来所

(2) ひきこもり支援者連絡会議実施状況

当年度も、「ひきこもり相談会・研修会」として、各保健所および市町村に希望確認をし、希望のあった地域と連絡調整をし、相談会等を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止をふまえオンライン研修を多く実施した。希望確認の項目と実施状況は以下のとおり。

〈希望確認項目〉

①関わっている機関の職員が集まったのケース検討会

②個別相談（当事者、家族） ③ひきこもりに関する研修会 ④その他

月	日	実施内容	備考
5	29	小樽市（小樽市保健所）研修会（講師）	家族相談会 参加者13名
6	6	音更町（帯広保健所）研修会（講師）	参加者19名
8	6	厚真町（苫小牧保健所）ケース検討	オンライン
8	21	倶知安町（倶知安保健所）研修会（講師）	家族交流会 参加者20名 ※ひきこもり元当事者同行
9	5	静内保健所 研修会（講師）	家族会 参加者8名
9	5	新ひだか町（静内保健所）個別相談・ケース検討	-
9	20	苫小牧市（苫小牧保健所）研修会（講師）	家族会 参加者10名
9	25	千歳市（千歳保健所）研修会（講師）	家族交流会 参加者14名 ※ひきこもり元当事者同行
10	2	稚内市（稚内保健所）研修会（講師）	参加者40名
10	3	豊富町（稚内保健所）個別相談・ケース検討	-
10	16	室蘭市（室蘭保健所）研修会（講師）	家族交流会 参加者26名
10	22	弟子屈町（釧路保健所）研修会（講師）	参加者8名
10	23	鶴居村（帯広保健所）研修会（講師）	参加者5名
10	29	月形町（岩見沢保健所）個別相談	-

10	30	壮警町（室蘭保健所）個別相談・ケース検討	-
10	30	釧路市（釧路保健所）研修会（講師）	参加者13名
10	31	釧路町（釧路保健所）研修会（講師）・個別相談	参加者15名
11	2	苫小牧市（苫小牧保健所）研修会（講師）	参加者60名
11	5	倶知安町（倶知安保健所）研修会（講師）	参加者30名
11	12	余市町（倶知安保健所）研修会（講師）	参加者13名
11	19	枝幸町（稚内保健所）研修会（講師）	参加者15名 ※ひきこもり元当事者同行
11	20	枝幸町（稚内保健所）ケース検討	※ひきこもり元当事者同行
11	26	旭川市（旭川保健所）研修会（講師）	家族交流会 参加者16名 ※ひきこもり元当事者同行
12	3	白老町、洞爺湖町（苫小牧保健所）研修会（講師）	参加者21名
12	4	鹿追町（帯広保健所）研修会（講師）	参加者20名
12	5	清水町（帯広保健所）研修会（講師）	参加者30名
12	12	京極町（倶知安保健所）研修会（講師）	参加者17名
1	21	石狩市（江別保健所）ケース検討	-
1	30	北広島市（千歳保健所）研修会（講師）・ケース検討	参加者9名
2	25	江別市（江別保健所）研修会（講師）	家族勉強会 参加者20名
2	26	北見市（北見保健所）研修会（講師）	オンライン 参加者20名

※設置要綱 別紙1

(3) ひきこもり支援関係者研修会実施状況

月	日	実施内容	備考
1	28	令和6年度(2026年度)ひきこもり支援対策研修会兼ひきこもり支援機関関係職員等研修会 (北海道障がい者保健福祉課と合同開催) ・ひきこもり当事者2名とのトークセッション(1名は当センター相談者) 参加者:251名	ZOOM開催

(4) ひきこもり関連会議参加状況

月	日	実施内容	備考
6	6	令和6年度 ほっかいどう孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム会議	ZOOM参加
-	-	ひきこもり地域支援センター職員等への人材養成研修・広報一式 第1回企画検討委員会(4/24)、講師・撮影準備会議(5/31)、 講師・撮影(6/24)、第2回企画検討委員会(8/8)、 第3回企画検討委員会(11/27)	-
10	3	令和6年度社会福祉推進事業 「ひきこもり支援にかかる支援マニュアル策定に向けた調査研究事業」確認作業	メール
11	25	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会 令和6年度総会・研究協議会 (岡山県開催)	参加
12	18	北海道地域若者サポートステーション連絡会議	ZOOM参加
1	21	令和6年度北海道子ども・若者支援地域協議会	ZOOM参加
2	16	令和6年度石狩市子ども・若者支援地域協議会	参加
3	24	ほっかいどう孤独・孤立対策官民連携プラットフォームに係る打合せ会議	ZOOM参加

(5) 講師派遣状況等

月	日	実施内容	備考
-	-	-	-

(6) 外部研修参加状況等

月	日	実施内容	備考
-	-	ひきこもりの老いを考えよう (ひきこもり当事者の老後を支え合う協同実践事業) 主催：NPO 法人レターポスト・フレンド相談ネットワーク	・全5回 ・名義後援 ・1名参加
11	23	道産こもり179大学 主催：NPO 法人レターポスト・フレンド相談ネットワーク	・全4回 ・名義後援 ・1名参加
1	30	ひきこもり支援拠点ワークショップ情報交換会 (広域な地域特性に対応したひきこもり多機能型支援拠点設置運営事業) 主催：NPO 法人レターポスト・フレンド相談ネットワーク	・名義後援 ・1名参加

(7) ひきこもりサポーター養成研修事業

月	日	実施内容	備考
10	28	令和6年度 ひきこもりサポーター養成協議会 ※設置要綱 別紙2)	対面
3	18 ~ 24	令和6年度 ひきこもりサポーター養成研修 ・「ピア活動をしてみての経験談」 ・「ピアを含むサポーターを養成していくためのシステムづくり」 インターネット配信期間：3/18(火)~3/24(月) 講師：当事者ピア、家族ピア 参加者居住地内訳：北海道49名(札幌市以外)、札幌市4名	-

※遠方であるなど道内の参加しやすさを考慮し、引き続き「動画配信」による研修会として行った。申込者にはパスワードを通知し限定公開とし、1週間(24時間いつでも)閲覧できるよう工夫を凝らした。

3. 普及啓発

相談先の掲載、インタビュー協力、リーフレット送付等により、ひきこもりに関する正しい知識の普及に努めた。

(1) 普及啓発実施状況

月	日	実施内容	備考
6	28	「ひきこもりや心の健康などに関する相談窓口の周知」(帯広市)	相談先掲載
12	17	「精神科未受診ケースについて」TV局報道部	電話
1	10	「ひきこもりの若者における就労に向けた支援方法のあり方について」 大学研究協力	アンケート
-	-	道内保健所および市町村へリーフレット送付	郵送

○講演会や研修会などを活用しひきこもり本人および本人に向けたリーフレットを適宜配布した。

(2) インターネット利用(ホームページ)による情報発信

「ひきこもり」に対する理解の促進や相談先としての周知、支援団体や相談機関などとネットワークを構築するためホームページによる情報発信を行った。

○ひきこもり相談ホームページアクセス件数(各ページ合計)

・令和6年度(13,196件) ※1日あたり約36回のアクセス

○「当センターを知ったきっかけ」として、当年度の新規相談91件のうち、「ホームページ」が41件(約45%)とほぼ半数となっており、有用な周知方法であるとわかる。他内訳としては、「不明」が26件(約30%)、「市町村窓口や関係機関」が17件(約19%)となっており、残りは「講演会」「親族」「当事者会」などがある。

